

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立林田小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもを育てる  
やさしく  
かしこく  
たくましく

今年度の指導の重点

自己肯定感と人権尊重の精神の育成  
基本的生活習慣の定着と健康安全教育の推進  
基礎基本の充実と問題解決能力の育成  
創造的建設的な自治活動能力の育成

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

**全体的な傾向**

国語A、算数Aとも、県平均と比べると正答率は低いが、無解答数が大幅に減少している。正答数の分布では、中位層に集中している傾向があり、上位層は少ない。

国語B、算数Bとも県平均と比べると正答率は低い。正答数の分布では低位・中位層が多い。

理科は全体的に県平均より低い。

短答式、記述式の問題の正答率が低い。選択式の問題の中には誤答が、ある一つの選択肢に集中しているものが多い。

**国語について**

「漢字の読み・書き」(「招く」「承知した」;本校100%)、「要旨をまとめて書く」、「文中の主語・述語」に一定の成果が見られる。「読む能力」に関する設問(「登場人物の相互関係を捉える」、「登場人物の行動をもとにして場面の移り変わりを捉える」、「必要な情報を読み取る」)で正答率が低く、県平均を下回っている。

**算数について**

分数の除法、図形の領域の正答率が高い。

「 $5/6 \div 7$ 」;本校100%(県平均88%)、「三角形の角の大きさを求める」、「作成途中の展開図にかく辺を選ぶ」

数と計算(特に小数)、数量関係の領域の正答率が低い。

「時刻を求める計算」;本校58%(県74.1%)、小数の加減;本校60%(県74%)

【学習状況調査の結果】

**学習について**

「国語は好き」、「算数は好き」、「理科は好き」の問いには肯定的な回答が多く見られ、県平均を上回っている。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますが;本校;52.6%(県67.6%)や「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか;」の肯定的回答が低く、文章で説明したり、うまく伝えるように話したり書いたりするなどの言語活動について課題が見られる。

自己肯定感や、物事の達成感に対する肯定的な意見の割合が県平均より低い。

**読書について**

読書の時間や図書館の使用頻度の高い児童の割合が多い。

新聞を読む、ニュースを見る児童の割合が高い。

**生活習慣について**

あいさつは、できていると感じている子の割合が高い。

地域行事への参加の割合は高い。

平日1日あたりのテレビ等の視聴時間、テレビゲーム等の時間が県平均より少ない。

携帯電話やスマートフォンの使用時間が県平均よりやや多い。

家庭等での学習時間は県平均より少なく、「予習をしている」児童の割合は低い。

朝食を毎日食べている児童が県平均より少ない。

成果と課題

**1. 基礎基本の定着**

国語・算数とも平均正答率は前年度と変わらない状況だが、全国平均には近づきつつある。また、無回答が減り、無回答率が低くなった。国語については、下位層から中位層への底上げが見られ、基礎的な内容の定着に努めてきた成果が見られる。算数については、前年度と比較して最下位層が減少した。しかし、下位層全体の割合は増加しており、基礎的な積み上げが課題である。算数で「小数の加法・減法・乗法」の計算方法、「時刻と時間」の計算方法についてくり返し指導する必要がある。

**2. 活用力を育てる授業づくり**

どの教科でも「勉強は好き」、「勉強は大切」、「よくなる」など意欲は高い。県「魅力ある授業づくり徹底事業」の成果が見られている。国語、算数ともに、活用型の問題を苦手としており、記述式の問題に対して無解答が見られる。また、昨年度より上位層の割合が減少している。

計画を立てて学習を進める、友だちと話し合ってお考えを広げたり深めたりする、自分の考えを話したり書いたりすることに課題が見られる。

**3. 補充学習**

前年度より、放課後補充学習を中心に、四則計算等の基礎的な内容や漢字の定着に取り組んできており、少しずつ効果が見られている。

**4. 家庭学習の取組**

PTAと「親子でチャレンジ」に取り組んできたが、「家で宿題をしている」という回答は県平均を下回っている。予習・復習についても下回っており

課題に対応した改善方法

**1. 基礎基本の定着**

当該学年までに配当されている漢字を、ドリルや小テスト等を行い正しく習得させる。四則計算では、特に小数の計算について式を立てたり、筆算を書いて計算したりすることができるような指導をくりかえし行う。

**2. 活用力を育てる授業づくり**

書く指導では、文字数や言葉などの条件設定をすること、考えをまとめて、文章の記述と関連づけたり、根拠となる事柄を意識させたりしながら書く活動を意図的に設ける。

県「魅力ある授業づくり徹底事業」を活用した授業改善、岡山型学習指導スタンダードを取り入れ、特別支援教育の観点に立った指導についての校内研究の充実を図る。また、活用力を育てるために言語活動を促した授業づくりについての研究を充実させる。

算数の指導では、問題文や式を図と関連づけることや、目的に応じて図やグラフを選択し活用することの指導を丁寧に行う。

**3. 補充学習**

朝学習、放課後補充学習等により、基礎的な内容が定着するよう継続的に進めていく。校内で共通の補充教材を活用することにより、系統的な指導ができることともに、系統表を活用することで領域や単元に偏りがなく取り組むことができるようにする。

**4. 家庭学習の取組**

家庭学習については、チャレンジ週間を設けるとともに、家庭学習ハンドブックを作成・配布して、家庭学習の内容や方法の指導を徹底す

取組の検証方法及び検証時期

**1. 基礎基本の定着**

4年、5年に学力定着状況たしかめテストを実施(11月)

**2. 活用力を育てる授業づくり**

児童へのアンケートの実施(学期ごと)

授業評価シートの活用(学期ごと)

共通補充教材の活用調査(学期ごと)

**3. 補充学習**

**4. 家庭学習の取組**

「親子でチャレンジ」1週間、のチャレンジ(学期ごと)

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

国語A、算数A、理科の平均正答率で県平均を上回る。

「友だちと話し合ってお考えを広げたり深めたりする」、「自分の考えを話したり書いたりする」の肯定的回答率を県平均以上にする。

国語A、算数Aで上位層の割合を県平均レベルに引き上げる。

家庭学習が1時間以上の児童の割合を上げる。

「予習」、「復習」をしている児童の割合で県平均を上回る。